

徳地の現在

徳地は柚野・八坂・串・島地・出雲の5地区からなっている。徳地は総面積の89%が林野である。北は仏峠で島根県に接し、東部は周南市、南西部は防府市に接している。北部に佐波川の源流を持ち、防府市にむかって南下し、さらに支流の島地川を集めて農地を形成している。出入りの少ない事で治安はよく、地域の互助精神も失われていない。

- 交流施設(外部の方々にも楽しんでいただける)
 - 国立山口徳地青少年自然の家(自然を相手とする教育施設) い-B
 - やまぐちサッカー交流広場(サッカーなどスポーツを通じて交流する) う-B
 - ふれあいパーク大原湖(水辺の自然を使ったアクティビティ) い-C
 - 森林セラピー基地(森に親しむ) い-B
 - 重源の郷(伝統工芸体験型テーマ公園)・徳地文化伝承館 う-C
 - 柚木慈生温泉(湯治型温泉施設) あ-C
 - ロハス島地温泉(道の駅型温泉施設) え-C
- 徳地の地産・特産品販売
 - 南大門(特産品全般) う-B
 - 伊賀地の郷 味工房(餅・米粉パン) え-B
 - 山里農産加工販売所(豆腐・そば・牛肉・米 など) あ-C
 - 新谷酒造(日本酒) う-A
 - とくち健康茶企業組合(カワラケツメイ茶など生薬) う-B
 - ヒカリエ(じねんじょ) え-C
- 風景を楽しむ
 - 日本の里百選 串の棚田 う-D
 - 三谷の石垣棚田 う-C
- 山登りを楽しむ(いずれも2時間以内で登られる。)
 - 三ツヶ峰 あ-D
 - 野道山 あ-D
 - 日暮ヶ岳 い-B
 - 石ヶ岳 う-D
 - 要害岳 う-B
 - 狗留孫山 う-B
 - 白石山 う-A
 - 文殊岳 え-C
 - 真田ヶ岳 え-A
- 蛍・桜:右のマップを参照。いずれも見事。
- 四季の花々桜・彼岸花・菜の花・藤・銀杏・タムシバ・榎(はぜ)

やまのいも・モクズガニ・わさび
しいたけ・お茶・味噌・いちご
松茸・はちみつ・コンニャク

徳地の歴史

- 第二次世界大戦 戦中・戦後(1940～1955)

林業が振興した時期であり、滑国有林を中心として材木の切り出し、植林が盛んに行われた。滑松は皇居新宮殿「石橋の間」「松風の間」や錦帯橋にも使われ品質の良さを誇った。一方繰り返す佐波川の氾濫に対処するため、大原地区に多目的ダムを建設した。この周辺にふれあいパーク大原湖・愛鳥林を整備した。地域に経済力があり、湖畔の桜もこの時植えられた。昭和30年(1955)の人口2万人がその後の人口流出で、現在(2017年4月末)は6117人と往時の1/3以下になっている。

日本の復興・工業化と引き換えに全国の農村部から人が失われた。

 - 昭和30年代の木材切り出し・運搬の様子(写真2枚) い-B, い-D
 - 森林トロッコ跡(明治42年～昭和26年の集中豪雨で壊滅) い-C
 - 防石鉄道跡(大正9年～昭和39年 バスは一時島根県益田まで運行) え-B
- 幕末・明治

安政元年(1855)の人口をみると1万5千人。人口の分布は、島地や堀などの商業地ばかりでなく、鯖河内・柚木・三谷と地形的には奥まった場所の人口が多い事に驚かされる。文久3年(1863)の奇兵隊募集に呼応し、農家・社寺の子弟が気軽に燃えて出て行った。農兵採用には身体強健である事など厳しい審査があったが、稽古には志願すれば参加できた。参加者の記録をみると最年少8才、元服前の子供から40才代の高齢者もいる。300名くらいが徳地から農民兵として出て行った。新しい世に沸き立った様子が窺える。馬関戦争・四境戦争・戊辰戦争などで活躍したが、明治2年(1869)10月に行われた新政府常備兵人選に農民兵は除外され、脱隊騒動が起こった。脱隊兵は鎮圧軍に捕えられ処刑された。

 - 正慶院(本陣があった) う-B
 - 亀山峠の砲台跡 え-C
 - 観念寺(脱隊兵たちが一時立てこもった) え-C
- 毛利藩政時代

中国8カ国を領有していた毛利家は関ヶ原の戦い(1600)に敗れた結果、周防長門の2カ国の外様大名となった。毛利家は家臣を養えず、下級武士は農民になったという。長州三白のうち、徳地は和紙の生産が盛んであった。農家の家計を助ける事大きく、薄く綺麗な紙が漉ける娘が嫁として歓迎されたという。なお、和紙は大内時代の中国への輸出品目にも入っているなど伝統の技であったと思われる。

 - 徳地手漉き和紙 え-C

蛍・桜情報

徳地は蛍のふるさとである。子供達は蛍籠と団扇・竹箒をもって浴衣で駆け回った。「今日は蛍狩りに行こうね」と約束し、親の注意を振り切って薄暗くなった土手にあつまる。

徳地の鑑賞ポイントをあげたがここにあげていなくてもちょっとしたせせらぎがあるところでは蛍を見ることができる。時期は5月の下旬から6月の下旬 本当には多いのは2週間くらい。



- 大内氏支配と重源上人時代(平安末期・鎌倉・室町)

大内氏は鎌倉時代に幕府の御家人となり、室町時代には中央に進出し、足利幕府と関わったが、それ以前の奈良時代から周防にあって地元の領主として力をもっていたとされる。重源上人は徳地の杣から東大寺再建の用材を出した(1181～1195)僧である。現在もこの重源上人に関わる遺跡、伝説が多く残り、重源の里と呼ばれる所以である。特に石風呂は重源上人がもたらした人々への慰労の手段であり、現在まで連綿と感謝を持って民俗の風習として残っている。

★重源上人を開祖とする寺社

- 法光寺阿弥陀堂(安養寺) う-C
- 西宗寺(西方寺、浄土寺) え-B
- 月輪寺薬師堂 え-C
- 寿福院・秀蓮坊 う-C

★杣だしの遺跡

- 関水 い-B
- 僧取岩 い-B
- 一升峠・ロクロ台 い-C
- 木引谷 え-C
- 獣岩 い-C
- 木落しの石畳 い-C
- 袈裟岩堂 い-C
- 百杯岩 い-C
- 米とぎの井戸 う-C
- 千人塚 う-C(2ヶ所)
- 聖岩 う-C
- 奈良定屋敷跡 う-B

★石風呂

- 野谷の石風呂(国指定の史跡) い-B
 - 観念寺の石風呂 え-C
 - 岸見の石風呂(国指定の重要民俗文化財) え-A
 - 袈裟岩堂の石風呂 い-C
 - 二の宮の石風呂 え-B
- 今は使用されていないものも含め多数残る。
国立山口徳地青少年自然の家・重源の郷では体験用に新設。

●奈良・平安時代(重源上人以前)

- 農業(畑作)を中心とした生業であったと推測され、このころ浴(谷川沿い)の開発が盛んであった。こうして開発された私有田にまつわる地名が各地に残っている。信仰については社寺を祀ること700年代からであり、山間の地ながら国衙(防府)から石州(島根)への交通の途であったことから古い社寺が残る。
- 法華寺(狗留孫山金徳寺:天武天皇勅願 飛鳥時代) う-B
 - 花尾八幡宮(飛鳥711) え-C
 - 周防二ノ宮出雲神社(奈良715) え-B
 - 現降八幡宮(奈良719) う-C
 - 昌福寺(福正寺:奈良時代) う-B
 - 山根八幡宮(平安859) え-B